

都市ガスとLPガスを核に
再生電力・通信事業を展開
脱炭素社会の実現を目指す

都市ガス（天然ガス）を供給する《鳥取瓦斯株式会社》と、LPガスを供給する《鳥取瓦斯産業株式会社》は、創業100年の2018年を機に、提供するブランド、サービスを「enetopia」へ一新し、次の100年へ向けて走り始めている。エネトピアとは、エネルギーとユーニア（理想郷）を組み合わせた造語で、エネルギーの創出と循環を目指し、環境にやさしいエネルギー供給の多様化で、人と地域を元気にしたいという想いがこめられている。

社の《株式会社とっとり市民電力》を設立。鳥取市内各所に大規模太陽光発電所、バイオマス発電所を設立し、翌年から再生可能エネルギー由来の電力供給をスタートさせた。地域で創生した再生エネルギーの電気は、とっとり市民電力を通じ、鳥取市の施設、小・中学校をはじめ、《エネトピアでんき》として一般家庭、事業所に届けられ、今では地域から調達される再生電力が5割に達し、電力の地産地消を着実に実現している。また、2023年2月には、ガス事業のLPガスで新たに「カーボンニュートラルLPガス」の供給を始めた。カーボンニュートラルガスとは、LPガスの採掘から燃焼工程で発生する温室効果ガス（CO₂）を、世界各国での環境保全プロジェクトにより創出されたCO₂クレジットで相殺し、LPガス使用によるCO₂排出を実質ゼロにすることができる。二酸化炭素（CO₂）削減の潮流が高まる中、エネトピアグループでは、再生可能エネルギーをはじめ環境負荷軽減に向けた活動を推進し、日本が目指す2050年のカーボンニュートラル社会の実現に貢献すると共に、エネルギー事業者として安定供給とレベルアップを図り、地域のトップランナーであり続ける。

時代の変化を敏感に捉え
新しい挑戦を続ける

「世界情勢や時代の変化から、省エネ、二酸化炭素削減など、エネルギー需要者（お客様）の意識も変わってきています。私たち事業者も、ガス・電気など生活に欠かせないエネルギーの安定供給だけでなく、今まで無かったアプローチや技術、取り組みに挑戦し成長しなければ、真にお客様、地域に貢献できる企業として生き残れないと思います」と話す児嶋社長。2020年7月には、山陰地域のLPガスシェア拡大とエネトピアブランドの浸透を目指し、初めて鳥根県へ進出。松江市玉湯町に《エネトピア松江》を開設し、出雲、大東、安来エリアで、LPガス、エネトピアでんきを中心にサービスを展開している。新電力会社設立、2016年からサービスを開始したインターネット高速通信《エネトピアひかり》など事業領域を駆け、サービスエリアを拡大するエネトピアグループ。「これからも、お客様の暮らしに無くてはならない企業グループであることを目指し、進取の取り組みにチャレンジしていきたい」と児嶋社長。社員たちも、安心・安全なエネルギー供給を通じ地域に貢献するというやりがいを胸に、意欲的に



エネトピアグループ

とっとりがす 鳥取瓦斯 株式会社／鳥取瓦斯産業 株式会社

人と地域に元気の種をまく
山陰の未来を創るエネルギー企業



鳥取中部の戦略拠点
《エネトピア倉吉》

1988年、倉吉市清谷に開設された鳥取瓦斯産業・倉吉営業所。創立100年を迎えた2018年、倉吉市和田に移転オープンし、《エネトピア倉吉》として生まれ変わった。倉吉市、湯梨浜町、琴浦町をエリアに、一般家庭、事業所、工場に向け、最適なエネルギー提案をしている。



毎年秋に開催される
展示会《エネトピア展》

最新のガス器具はもとより、IHクッキングヒーターや電気給湯器などのオール電化商材など、快適で便利、エコな暮らしを実現する提案が盛りだくさん。拠点のある岩美、鳥取、倉吉、米子で順次開催されており、62回目となる2023年は、《エネトピア松江》で初めて開催した。



鳥取市民体育館は
《エネトピアアリーナ》へ

2023年4月1日から3年間、鳥取市吉成の市民体育館のネーミングライツを取得。市民にエネトピアグループの認知度を上げると共に、地域活性化とスポーツ振興に貢献。この体育館から、日本を代表するスポーツ選手の誕生を願っている。



グループを牽引する
児嶋太一 代表取締役

松江市生まれの鳥取育ち。母方の実家のある松江、奥出雲町は縁のある場所で、《エネトピア松江》の開設に想いがこもる。電力会社設立は、1918年に市民運動で誕生した鳥取瓦斯の創業者、児嶋幸吉（1857～1929）の悲願でもあった。100年をへて児嶋家5代が達成した。



エネトピアグループ
鳥取瓦斯 株式会社
鳥取瓦斯産業 株式会社

事業内容

ガス事業、ガス器具の販売、都市ガス工事、
簡易ガス事業、その他の関連事業、
LPガス・高圧ガス販売

創 業 大正7 (1918) 年7月9日
代表者 代表取締役社長 児嶋 太一
社員数 129名 (男102名 女27名)
本 社 鳥取県鳥取市五反田町6
電 話 0857-28-8811

採用エリア(勤務地)

鳥取市、倉吉市、米子市、松江市

採用担当者からあなたへ

当グループは、総合エネルギー企業としてお客様の生活を多方面から支えることができるのが強みです。地域の皆様の暮らしを豊かにするため、私たちと一緒にチャレンジしていきましょう!!素直な考え方ができる方、コミュニケーション能力の高い方、失敗を恐れず挑戦する方を求めています。



総務グループ
総務人事チーム主任
山口 俊平さん

資料請求・お問い合わせ先

採用直通 TEL

0857-28-8813

採用直通 E-mail

s.yamaguchi@enetopia.jp

公式サイトはこちら



宮脇さんと同じく鳥取瓦斯の平木創大さん(22)は、都市ガスのガス管工事の設計・施工管理や定期的な点検、維持管理を行う導管保安グループに配属された。「鳥取市内で、ガス管が埋設されている近くで水道、道路の拡張、住宅の撤去などの工事があると、『施工立会』といって工事に立ち会います」と教えてくれた。「OJTが明けてからは一人で出勤しますが、困った時は、すぐ先輩や上司に相談するようにしています。ガスだけでなく、水道、電気など他の知識も必要な仕事なので、学びがいがあります」。平さんは鳥取市生まれ。関西の大学に進学したが、就職は大好きな鳥取一択だった。自分が好きな町のライフラインを支える仕事に、誇りをもって取り組んでいる。

鳥取瓦斯産業・ビジネス推進グループの中野大成さん(23)は、2023年入社。ビジネス営業チームで、工務店や住宅メーカーに向け、ガス機器、給湯器などを販売している。「入社前は、体育会のような、ダメ社会」をイメージして身構えていたのですが、そんなことはありませんでした。先輩、上司共に温かく受け入れてくれ、自然と打ち解けられましたね」。仕事では定期的に取引先を訪問したり、ショールーム「エネトピアプラザ」に工務店を招き、最新のガス器具や電化商材の勉強会を開催したりする。「高校時代、硬式野球部で地域の皆さんの応援や支援がありがたかった。今度は自分がこの仕事を通じ、地域の人々を支えたいと思います」



1



2



3



4



5



6

1 「2社どちらでも活躍できる人材を育てたい」と垣田人事部長 2 営業チームの打ち合わせ風景 3 4年ごとにいうLPガスメーターの定期点検 4 エネトピア倉吉の玄関フロア 5 中山間地域の資源保全や農産物振興に貢献する《とっとり共生の里》に参画。2023年5月、鳥取市国府町楠城地区と協定が結ばれた 6 社内の軟式野球部では40・50代も活躍

業務に打ち込んでいる。
人を想い地域の未来を創る
エネトピアの仕事あれこれ

鳥取瓦斯と鳥取瓦斯産業は、取り扱うガスが異なるため別法人になっているが、社員の待遇、福利厚生、人事制度、教育などはすべて同一である。それぞれの会社で配属されると、人材育成を目的とした「ジョブローテーション制」により、さまざまな業務で経験を積み、スキルアップを図ることができる。ガスエネルギーという危険物を取り扱い、お客様の安全を守るためには、技術力が不可欠。そのためOJT、メーカー研修、eラーニングなどの教育をはじめ、ガス主任技術者をベースに業務に必要な資格取得を全額支援。中間層の社員にポイントをおいた人事評価制度で、社員の成長を支えている。

鳥取瓦斯産業リビング本部の圓城寺正儀さん(47)は、入社17年目のベテラン社員。現在、2018年に移転開設した《エネトピア倉吉》の主任を務め、メーター・ガス器具の点検から営業、メンテナンス対応までマルチに活動している。鳥取市出身の圓城寺さんは、30歳で大阪からUターン。途中で鳥取瓦斯に入社し、工務店、設備会社への営業を10年経

験した。「入社5〜6年目から、もっとエンドユーザーと接点を持ちたいと思うようになりました」。6年前に、鳥取瓦斯産業・旧倉吉営業所へ出向。その後異動した米子営業所の4年間で、エネトピア松江のオープンを目指し、松江・出雲まで営業に足を延ばした。「鳥取、倉吉、米子でさまざまな業務を経験し、技術も習得。失敗やお客様とのふれあいから学んだこともたくさんあります。今後はそれらを社内でも共有し、後進の育成に貢献したい」と話してくれました。

鳥取瓦斯・小売供給保安グループ製造チームの宮脇佑妃さん(23)は2023年入社。タンクローリーで運ばれてくる都市ガスの原料の天然ガス(LNG)を貯蔵、製造工程を担当している。「鳥取瓦斯は、社会インフラを支える歴史ある企業。どんなアプローチでエンドユーザーと関わっているのか知りたい」と思い、最初は営業希望でした。でも、製造部門に配属されて良かったです。ガス供給の原点を知ることができ、視野が広がりました」と話す。今は製造の業務をしっかり身につけ、ガス主任技術者資格取得(乙種)を目指す。30歳を一つの区切りに、業務・知識を貪欲に吸収したいと願っている。



地域のお客様とじっくり信頼関係が築ける営業

LPガスを利用しているお客様を定期的に訪問し、ガス器具の保安点検やヒアリング、ガスボンベの配送などを行うエネトピア倉吉の圓城寺さん。用件の後、お客様の話し相手になるひと時にやりがいを実感する。



工務店や住宅メーカーにガス器具の提案を行う営業

新築、増築、リフォーム住宅に向け、最新のガス機器や電化商材を提案する中野さん。ガス衣類乾燥機+オール電化のコラボ人気を肌で感じている。営業職でもLPガス取り扱いに関する資格は必要。設備士取得を目指す。



ガスの安心安全な供給の要となる製造、保安業務

本社工場でタンクに貯蔵されたLNG(液化天然ガス)を気化させ、都市ガスを製造する宮脇さん(上)。供給エリアのすみずみまでガスが届くよう、道路に敷設されたパイプライン(導管)の維持管理を行う平木さん(下)。